Beisia

News Letter

2022 年 9 月吉日

～お盆笑える失敗談エピソード受賞作品 10 作品～

私が小学生低学年の頃のお話です。
お盆時期になるとお坊さんが家に訪ねてきて、盆供養としてお経をあげてくれるのがお決まりでした。
いつも通りに進み、お焼香をする番になりました。足が珍しく痺れる事もなく、いい感じで終わりそうと思っていたその時「ぷーーつ」と軽快な音が響き渡りました。半分お尻を上げた私から、おならが出てしまったのです。

家族はお経中にも関わらず涙を流しながら笑い、お坊さんは冷静にお経をあげているかと思いきや、肩を震わせ声を震わせながらも続けて下さいました。
いつもクールなお坊さんのあんな姿を見たのは後にも先にもないと思います。とても恥ずかしく失敗した思い出ですが、お盆の時期になるとこの話題が上がり未だに笑い話として語り継がれています。

お盆に家族が集まると、必ず話題に上る思い出話があります。
妹がまだ小学生になるかならないかの頃、お盆に家族、親戚とお墓参りに行きました。
妹が「お線香を持ちたい！」と言ったため、父は「絶対に動かさないでね」と言い聞かせて、お線香を渡しました。

その後、父が屈んでお線香をあげていると、「熱いっ！！」と叫びました。皆びっくりして、何があったのかと辺りを見回すと…
妹が持っていたお線香が、父のズボンのお尻に当たって、丸く穴が空いていました。約束を守り、父のお尻がお線香に当たってもじっとお線香を持っていた妹を、誰も叱るに叱れませんでした。
あれから 30 年近く経っても、家族皆、昨日のことのように笑いながら思い出話ができることに幸せを感じます。

父が亡くなった 20 年ほど前、初盆のときのことです。
盆の入りの日に、迎え火をするためお墓へ行きました。提灯の中のろうそくに火をつけたものを墓前に置き、周りの草むしりをしていると、母から「わぁー！大変大変！」との声。振り向くと、ろうそくの火が提灯に燃え移っていたのです。
亡くなった人は迎え火を頼りにして家に帰ってくると聞いていたので、骨組みだけになってしまった提灯を見て「お父さんが家に帰ってこれなくなっちゃった！」と言うと、母は一言、「近所だから帰ってこれる」と。
あのとき父は迷わずに帰ってこれたのかなと、お盆が来る度に思い出されます。

小学生の頃毎年お盆には親戚が集まりいとこたちと遊ぶのが楽しみでした。
ある年の 8 月 13 日の朝、母からお使いを頼まれ近所の商店に醤油を買いに行かされました。
当時の醤油は**一升瓶に入ったとても重たいもの**で、私は必死に両手で抱えて家まで向かいましたが途中の神社の前の道で腕の汗と瓶の重さでスルッと落としてしまい**ガッチャーン**とこっぱみじんに割ってしまいました。

近所の皆さんがあわてて集まってきて足でガラスの破片を蹴飛ばして道の端に寄せてくれました。
泣いてる私を知り合いのおばさんが家まで連れてってくれて母が玄関で頭をすり付けるようにして謝っていた姿が 50 年近くたっても忘れられません。
それでも夕方になるといとこ達と浴衣を着て神社の盆踊りに遊びに行きお祭り気分で楽しんでいると
「**なんか醤油くさくない？**」と誰彼となく話す声が聞こえてきて、私はいたたまれず、ちょっとお腹の調子が悪いから先に帰るねと、とっとと帰ってきてしまいました。

今は醤油は 1 リットルや 450ml のペットボトルでお店に並ぶようになり、とても軽くなり落としても滅多なことでは割れなくなりました。
小さな子供さんでも簡単に持ち運べるようになりお使いもしやすくなったと思います。むかしむかしの子供のちょっと恥ずかしいエピソード話でした。

私の仕事はサービス業です。お中元からお盆はギフト繁忙期で、来る日も来る日も包装で大忙し。
15 年くらい前のことですが、今でもこの時期になると『あの時は、お客様と一緒に大笑いしたね』と同僚から言われる失敗談があります。

その失敗とは、仏の包装ですと言うはずだったのに…
『**ブス包装です！！**』と大声で言ってしまったこと。
ピークタイムで、お客様は長蛇の列でした。その一言に気付いた人たちは大笑い。
言った本人は、大真面目で答えたので言い間違いに気付いていませんでした。
何でみんな大爆笑してるの？『ブス包装』って言ったからだよと知らされて、本当に恥ずかしかったです。
これ以降、包装紙の柄を確認する時は慎重になりました。
コロナ禍ですが、今年のお盆商戦も頑張ります！！

お盆は家族や親戚一同が集まり、親族のお墓の前で線香を上げるのですが、毎年線香は代表の１人が持ちます。
その年の代表は私の父で、お墓の前で線香に火をつけるのですが、後ろから見ていると何やらモタついてるようで何かあったのかと近付くと、何と**線香が全てバラバラ**に折れていました。明らかに『マズイ』と表情に出ている父に親戚も気付きだし、手に持っているバラバラの線香を見て笑いが起きました。

『力入れて持ちすぎだよ～』『昔っから力加減分かんねぇやつだったからなぁ』『どれ、俺達にも分けてくれ』と皆笑いながらフォローして下さり、失敗を笑いに変えてくれた親戚の方には感謝しかありません。

実家に帰省した時の話です。
その時は台風一過で風の強い日の中、お盆様を送らないといけないという日でした。送る際に提灯にろうそくを灯し、お墓まで運び、お墓で消すというしきたりがあるのですが、お墓までの道中で火が消えると、家まで戻って、仏壇のろうそくから火を貰わなければいけないのです。

さて、その日は強風、そして提灯も長く使い続けて、所々小さい穴が空いているのです。案の定消しては家に戻り、消しては家に戻るというお墓までは 800m くらいの距離だったのですが、さすがにもう嫌だと業を煮やした家族は、スポーツの試合前の**円陣を組むような状態**で密着しながら、まるで水一杯のバケツを運ぶように慎重に慎重にと道を歩いていると、通りすがりの方々から、お盆だけに何かの儀式をしているのかと、心なしか距離を置かれてしまった記憶があります笑

結婚して初めて迎えるお盆に、夫の実家へ帰省した時の出来事です。
先祖代々のお墓に皆で出掛けてお参りしたわけですが、掃除も終わりいよいよお線香に火をつける番になり、義母から「ちょっと持ってて」と火が灯ったばかりのお線香の束を渡されました。
独身時代は親とお墓参りしても最後にただ手を合わせるだけでしたので、お線香に火をつけたことも、火のついたお線香の持ち方さえも知りませんでした。そのため、渡されたお線香の束が周りの紙ごと勢いよく燃え出し、**「ギャ～」と叫び放り投げて**しまったのです！

ご先祖様も「**こりゃとんでもない嫁が来たもんだ**」と随分驚かれたことでしょう。あの頃の義母の歳を越えた今でもお盆のたびに思い出し、「お陰様でみんな元気に過ごしています。あの時はびっくりさせちゃってごめんなさい。」と話しかけています。

私が小さい頃、お盆休みに祖父母の家に遊びに行きました。玄関に入る前精霊馬が置いてあり、「ご先祖様が乗る乗り物なんだよ～」と祖母に教えてもらいました。
幼い自分は、それにわくわくした気持ちになり、天国から移動するなら**速い乗り物の方がいい**かと考え、自分が持っていたスーパーカーのミニカーをすぐ横に置きました。

帰る時、**置いたことを忘れてそのまま帰って**きてしまいました。祖父母からは特にその後、ミニカーについて触れられることはありませんでした。もしかすると、本当にご先祖様はスーパーカーに乗って天国に帰っていったのかもしれません。

小学生の時、お盆より少し前に初めて弟と 2 人だけで祖父母の家に泊まりに行きました。

着いてしばらくして弟がトイレに行きましたがなかなか戻って来ません。
お腹でも壊したかな？電車でジュース飲んでたし…そう祖父母と話しながら待っていると戻ってきた弟はなぜか**ずぶ濡れ**。
初めて見るウォシュレットが珍しく、ボタンを押してしまい水が止まらなくなったそうで、ずぶ濡れの弟にみんなで大笑い。
30 年以上たった今でもお盆で親戚が集まると語られる笑い話です。
ちなみに弟は 40 すぎても**ウォシュレットが怖くて使えない**そうです(笑)